72歳

㈱スノーラ 代表取締役
須鎗（すやり）　孝康（たかやす）さん

加古川市平岡町二俣９０５－８１
ＴＥＬ：０７９－４３５－１７１０

１９５３年生まれ　この年の出来事

〇吉田首相の「バカヤロー」発言と衆議院解散　〇奄美諸島返還　〇社用族・公用族を中心にドライブブーム　〇テレビ初の高校野球中継「第35回全国高校野球大会」を中継

１９７９年、私はまだサラリーマンでした。先代社長の父と共にその年に人工降雪機『SNO-LA』を自社開発し、そのデビュー戦でクリスマスイヴにハワイのホノルル動物園前で雪を降らせる演出を実現しました。この模様は当時、米国のニュースで取り上げられ大きな話題となりました。以降、各地の人工雪イベントやCM、工業製品のテストなどさまざまな用途で活用いただいています。最近ではファミリー向けのテーマパークや夏フェスなどのイベントにも採用され、大人から子供まで幅広い世代に喜んでもらっています。

コロナ禍ではイベント自体が無くなり、売上が一時は8割減になるほど厳しい状況を経験しました。売上の減少も深刻でしたが、当時一番怖かったのはお客様に「忘れられてしまうこと」でした。しかし、コロナウイルスの感染症分類が5類に移行すると、以前からの取引先やお客様から少しずつ依頼が戻り、そのありがたさを改めて実感しました。

こうした時代の流れを経て自分自身の価値観も変化し、「目に見えるもの」から「目に見えないもの」をより大切にするようになりました。仕事では、クライアントや一般のお客様が喜んでくれることが何よりのやりがいです。また、趣味で始めたケーキ作りは10年以上続いており、特に季節の果物を使ったショートケーキが得意です。従業員の記念日や誕生日に手作りのケーキをプレゼントすると大変喜んでもらえるので、同じくらい私も嬉しく思います。

年齢を重ねるにつれ病気やケガを経験することもありましたが、幸い完治したものも多く、健康のありがたさを日々感じています。今年は過去に登ったことのある「白山」への再挑戦や、サーキット走行会への参加を個人的な目標にしています。仕事面では、昔は人工雪にコンプレックスを抱いていたこともありました。しかし今では、青空に舞う人工雪の幻想的な美しさを多くの人に知ってもらいたいと思っています。今年はさらにグレードアップした人工雪を提供し、多くの方に楽しんでもらいたいです。

84歳

一陽美容室 店主
藤本（ふじもと）　陽子（ようこ）さん

加古川市加古川町北在家２４９８
ＴＥＬ：０７９－４２３－０６２４

１９４１年生まれ　この年の出来事

〇国民学校令により、全国の小学校が国民学校と改称される　〇真珠湾攻撃、米、英、蘭、中国が日本に宣戦布告　〇戦艦大和の竣工　〇セントライトが日本競馬史上初の三冠馬に

私は高校卒業後、OLとして働いていましたが当時の時代の流れもあって、20代半ばで退社しました。その後、実家が美容業を営んでいたこと（現在では親戚も含め、実家の家族全員が美容業に携わっています）や、これからの女性は手に職をつけて働く時代になると考え、美容専門学校へ入学しました。その学校を卒業する際に校長先生から贈られた「美容師の“師”は医師の“師”と同じ名称で同格の価値があります。プライドをしっかり持ち、勉強し、国家資格という免許を取得して、一般社会からも認められる素晴らしい美容師になりなさい」というエールは、私が働く上での道標になりました。また、結婚式で花嫁さんのお支度をさせて頂いている母の凛とした姿や、一つ紋の着物の上に真っ白な割烹着姿がとても印象的で「美容師ってなんて立派な仕事なんだろう」と心に深く刻まれています。

そんな思いで開業した「一陽美容室」という名前は、「一陽来復」という言葉に由来しています。この言葉には、「悪いことが続いたあとには幸運が訪れる」という意味があります。私はこれまでの人生で辛いことや嬉しいことをたくさん経験してきましたが、巳年生まれということもあり、そのたびに「脱皮」して新しい自分になれてきたと思っています。それもお客様、スタッフ、家族、そして地域の皆さんのおかげです。

あるとき、お客様から「陽子ちゃんがお店で頑張っているから私も元気に頑張ろうと思うわ」と声をかけていただいたことがありました。その一言がとても嬉しくて、美容師には定年がないことを改めて感じ、「体が動く限り生涯現役で頑張ろう」と決意しました。私にとっての健康の秘訣は、やっぱり仕事を続けていることです。それに加えて、加古川市が行っている「いきいき100歳体操」もオススメです。週に1回、1時間程度ですが近所の方々とおしゃべりしながら体を動かせるので、とてもリフレッシュになります。

これからもたくさんの方々への感謝を忘れず、次の世代を担う若い人たちの育成にも力を入れていきたいと思っています。

【巳年（２０２５年）はこんな年】

干支の組み合わせ（十干と十二支の組み合わせ）は60通りあり、これを六十干支と呼びます。60年で干支が一回りすることから、60歳になることを「還暦」と呼びます。今年、2025年は「十干 十二支（じっかんじゅうにし）」でいうと、42番目にあたる「乙巳（きのとみ）」です。

過去の乙巳の年には、乙巳の変（中大兄皇子（後の天智天皇）と中臣鎌足（後の藤原鎌足）らが蘇我入鹿を暗殺した事件）や、いざなぎ景気（1965年11月から1970年7月にかけて、計57か月間続いた好景気）が始まったり等、大きな社会変化も起きました。2025年は関西・大阪万博等が予定されており、経済的にも成長の年になると期待が高まります。

さて、ヘビというと少し怖いイメージもありますが、一方で“金運アップの象徴”としてヘビが脱皮した抜け殻やヘビのアイテムを財布に入れたり、ヘビ柄の財布も金運アイテムとして知られています。

ヘビが金運と結びついているのは、古代インドでは白蛇が金運をつかさどる弁財天の使いと言い伝わっているからです。さらに、脱皮を繰り返すヘビは、生命力や再生の象徴とも考えられ、金運のみならず繁栄や成長に例えられる縁起の良い動物とされています。

【ヘビにまつわることわざや慣用句】

【竜頭蛇尾／りゅうとうだび】

頭が竜のようで、尾が蛇のようであること。初めは勢いが盛んであるが、終わりのほうになるにしたがって、ふるわなくなることのたとえ。

【蛇の道は蛇／じゃのみちはへび】

同類の者は互いにその社会、またその方面のことに通じているということのたとえ。

【藪をつついて蛇を出す／やぶをつついてへびをだす】

よけいなことをして、かえって自分にとって悪い結果を招くこと。藪蛇（やぶへび）と略して使われることも。

【蛇足／だそく】

蛇の絵を早く描く競争で、最初に描いた者が足まで描いて負けたという「戦国策-斉策上」の故事からよけいなもの。なくてもよい無駄なもの。